

スクーリング・アンケートより(1)

アンケートよりスクーリング講義の感想を抜粋いたしました。

●特講・福祉心理学4(スクール・カウンセリング)

- ・先生の実体験にもとづいた話で、学校機関や医療機関等との連携の大切さが理解できました。講義の中での「1人で支援するのではない」との言葉が頭に残っており、職場へ持ち帰り実践していこうと思えました。
- ・スクールカウンセラーが前面に出ず、あくまで縁の下の力持ちである、という話が印象に残りました。自身の仕事に誇りを持って持つほど自分が先頭を切って引っ張っていこうという気持ちになってしまうがスクールカウンセラーの役割や立ち位置はそうではないという点について考えさせられました。
- ・小学生の子どもがいるので、今後も役立つ講義でしたし、現状での問題点や自分の誤った対処など反省点が分かりました。生徒・保護者・先生の性格が様々なので、その都度対処の仕方は異なり、事例も無限なのかなと考えさせられました。カウンセラーは熱い気持ちを胸の奥に持ち、客観的に冷静に視野を広くということが大事だと感じました。

●特別支援教育支援員概論

- ・今回は肢体不自由が中心でしたが、特別支援教育支援員として子どもの困り感を感じとって心に寄りそって「自分が大事だよ」とその子のやれることを増やしていけるよう支援していきたい。
- ・“できない”ではなく、どうやったら“できるのか”どの部分ができるのか、何が得意なのか、そのような考えや目をいつまでも持っていたいと感じることができました。
- ・学習性無気力に子どもをさせないために幅広い、あたたかい心を持って欲しいと言われたこと、全くその通りだと思いました。

●精神保健福祉論Ⅲ・精神保健福祉の制度

- ・菅原先生の話の基本には常に「個人の尊重」が底にあってお話が進むのでスクーリングに出るたび今、自分の行っている支援がちゃんと行えているか振り返ることができます。
- ・法律や制度を変化・発展させるのもまた人間の意思であり、強い気持ち、すなわち語り＝ナラティブが社会を動かすのだと人間力の重要性に改めて気付かされました。